

丸子地域自治センター

令和6年度 重点目標

- 1 地域に根ざした丸子のまちづくり
- 2 農業振興による地域活性化の取組
- 3 丸子温泉郷の魅力向上と産業の創出
- 4 人と環境に優しい地域づくり

令和6年度 重点目標管理シート

重点目標		地域に根ざした丸子のまちづくり		部局名	丸子地域自治センター	優先順位	1 位
総合計画における 位置付け		第 1 編 市民が主役のまちづくり 第 1 章 自治の推進による活力ある自立した地域社会の実現 第 1 節 参加と協働による自治の推進		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」に おける位置付け	福祉を充実し、多様性を尊重した地域共生社会を実現する		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 イ 多様な主体が市政に参画・協働する制度づくり エ 広域連携の推進					
現況・課題	地域内分権による地域の自治のさらなる推進を目指し、「丸子まちづくり会議」や地区会議と連携・協働による事業の取組が求められています。丸子地域の特色ある地域づくりについて、木曾義仲継承活用や公共施設再配置構想等において研究や活用が課題になっています。パートナーシップ協定による市商工会・丸子修学館高校が連携して行う事業を一層進めることが課題です。西内・平井地区を中心とする公共施設の廃止や老朽化に伴う利活用について幅広い意見や要望を聞き、検討が必要です。また、建築後 4 5 年経過した自治センターの老朽化した設備改修が課題です。						
目的・効果	丸子まちづくり会議と行政が協働した事業に取組むことにより、地域課題の解決や地域活性化につなげます。自治センターの老朽化した設備改修を進めることにより来庁者や地域住民の安心感と地域防災の拠点施設として災害時にも機能が果たせる計画が出来ます。			該当する SDGsの目標			
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	【地域課題解決に向けた取組】 (1) 丸子地域における将来像の検討 (2) 丸子地域公共施設の在り方検討(西内小、コミュニティーセンター西内) (3) 丸子修学館高校と上田市商工会とのパートナーシップ協定に基づく取組 (4) 地域防災力向上の取組	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月 (4) 4月～3月	(1) 上田市総合計画策定に併せて地域計画の検討 (2) 検討委員会組織発足(5月) 及び 利活用検討 (3) 協定に基づく事業実施（3事業） (4) 上田市防災訓練の実施（8月） 自主防災リーダー研修会の実施 （2月）	(1) 丸子地域まちづくり方針素案を作成 (2) 検討委員会準備会開催（6月） 西内平井地区活性化連絡協議会発足（7月） 西内小周辺利活用検討委員会（2回開催） (3) 協定に基づく事業の実施 ・センターだより記事掲載(2回) (4) 上田市防災訓練は、台風の影響で中止 自主防災リーダー研修の開催準備		(1) 上田市総合計画丸子地域まちづくり方針（案）作成 (2) 西内平井地区活性化連絡協議会発足（7月） 西内小周辺利活用検討委員会（5回開催） 文部科学省HP「みんなの廃校プロジェクト」に情報掲載 (3) 協定に基づく事業の実施 ・げんきまるこ産業フェスタ2024に出展 ・「丸子地域武石地域魅力つめあわせマップ」制作に参画 ・センターだより記事掲載計(3回) 等 (4) 上田市防災訓練は、台風の影響で中止 自主防災リーダー研修の開催（2/28）	
②	【参加と協働による住民自治の推進】 (1) 住民自治組織への支援・協力・連携 (2) 依田川リバーフロント、かわまちづくり活用	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 活動に対する人的支援、事業協力 会議へ出席し地域課題などの情報共有 (2) 広場を周知し活用イベントを開催	(1) 丸子まちづくり会議役員会及び三役会に参加（12回） 及び運営に対する助言 (2) 信州爆水RUNin依田川のコースとして活用 川の絵募集及びイベント開催周知		(1) 丸子まちづくり会議役員会及び三役会に参加（計24回） 及び各種事業への協力 (2) イベント等を通じて広場の周知PR・活用を促進 ・運動講座及びあおぞらコンサートを開催 ・川の絵展示及び信州爆水RUNin依田川のコースとして 活用	
③	【丸子地域自治センター整備】 (1) 南棟設備改修 機械設備工事の工事実施 (2) 南棟設備改修 電気設備工事の工事実施	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 進捗率30%【債務負担】 (2) 進捗率30%【債務負担】	(1) 工事進捗率 9月末現在 6.0% (2) 工事進捗率 9月末現在 7.9%		(1) 工事進捗率 3月末現在 61% (2) 工事進捗率 3月末現在 65%	
特記事項				○取組による効果・残された課題			

令和6年度 重点目標管理シート

重点目標		農業振興による地域活性化の取組		部局名	丸子地域自治センター	優先順位	2 位		
総合計画における位置付け		第3編 誰もがいきいき働き産業が育つまちづくり 第1章 次世代へつなぐ農林水産業の振興 第2節 農林業の安定的な生産体制の整備と地域化の促進		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」に おける位置付け	日本を代表する循環型社会をつくる DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる				
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 (2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 (3) 時代に即した行政運営への改革 (4) 人材の確保・育成と職員の意識改革 ウ市有財産の適切な管理と利活用							
現況・課題	平井寺トンネルや三才山トンネルが無料化され交通量が增大している国道254号沿線は、道路利用者の休息機能や情報発信機能及び有事での待避所（防災等の拠点）の設置と、それに合わせて、上田地域の特産物（農産物やお土産）を効率的に販売・PRする場の整備が求められています。 陣場畜産団地豚舎周辺は、有機物リサイクル施設の整備が進むことから、観光振興・環境配慮のための整備が求められています。 上田市初のワイナリーとなる「梔子ワイナリー」は、地域の新たな魅力や経済的な効果を生み出し、また、キリングループとのワイン産業振興を軸にした地域活性化に関する包括連携協定に基づき、ワイン産業の活性化やワイン文化の醸成を通じて、地域産業や観光振興の発展が期待されています。 優良農地である、上長瀬・下丸子地区は農業基盤が未整備であり、作業性の悪さや農業従事者の高齢化などにより、年々耕作放棄地が増える一方です。また、中山間地区においては、農業基盤の老朽化への対応が求められています。								
目的・効果	道の駅の整備により、交通災害や環境悪化の緩和、直売所設置することで地域産業の活性化及び地元観光情報の発信強化 陣場畜産団地豚舎周辺の景観配慮と畜産振興、遊歩道・展望台・多目的広場整備による新たな魅力づくりと観光振興 梔子ワイナリーのワイン産業を中心とした地域農業及び経済の活性化 上長瀬・下丸子地区の農業基盤整備による効率化及び遊休荒廃地の解消 中山間地域における遊休農地の発生防止・解消				該当するSDGsの目標				
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）				
①	【地域活性化に向けた道の駅整備】 (1) 開設準備に向けた組織体制 (2) 基本計画の策定 (3) 事業の推進	(1) 4月～3月 (2) 4月～10月 (3) 3月まで	(1) 運営候補者の検討 (2) 基本計画の策定 (3) 官民連携手法による事業の推進	(1) 運営候補者の検討のため庁内会議(7回) (2) 基本計画の策定のため庁内会議(7回) (3) 事業手法の検討のため庁内会議(7回)	(1) 運営候補者の検討のため庁内会議（14回） (2) 基本計画（案）策定後市民意見募集の実施 (3) 官民連携事業手法検討のため庁内会議（14回）				
②	【陣場台地周辺環境整備】 (1) 有機物リサイクル施設建設に向けての協働 (2) 地域振興事業の推進	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 調整会議等への参画 (2) 住民参加組織の発足及び計画・整備の推進	(1) 会議の開催なし (2) 陣場台地土地利用検討会を発足し3回開催	(1) 陣場地区有機物リサイクル施設調整会議に1回参画 (2) 陣場台地土地利用検討会を発足（5/13）し6回開催				
③	【ワイン振興の推進】 (1) 梔子ヴィンヤード・梔子ワイナリーと地域との共生推進 (2) 地域内ワイン産業の振興	(1) 2月まで 4月～10月 (2) 4月～3月	(1) ワインイベントの開催 （延べ参加者500人以上） ワイン用ぶどう農作業体験の開催 （延べ参加者300人以上） (2) 地域内ワイン生産者等との連携	(1) 信州ルネッサンスでワインブース設置（延べ参加者149人） 梔子マルシェ（春235人） 梔子スケッチ大会(63人） ワイン用ぶどう農作業体験の開催 （延べ参加者399人以上） (2) ワイン生産者のワインイベントへの参画3社	(1) 信州ルネッサンス等にてワインイベントを4回開催 （延べ参加者1,094人） ワイン用ぶどう農作業体験の開催 （延べ参加者496人） (2) ワインイベントを2回開催してワイン生産者6社が参画				
④	【地域特性を活かした農業振興】 (1) あさつゆとの協働による地産地消の推進 (2) 上長瀬・下丸子地区未整備農地の営農計画の検討 (3) 担い手への農地の集積・集約化 (4) 新規参入の促進支援 (5) 農業委員による遊休農地の発生防止・解消	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月 (4) 4月～3月 (5) 4月～3月	(1) あさつゆ20周年地産地消PRイベント開催（延べ参加者100人以上） (2) 地権者代表等の研究会組織発足及び計画検討 (3) 農地流動化促進（20ha以上） (4) 認定新規就農者等の支援（2人以上） (5) 目標地図の作成・地域計画の策定	(1) 地産地消PRイベントと20周年記念レセプションの開催（四季鍋会4/6 参加者23人、20周年参加者99人） (2) 上長瀬・下丸子農地利用会議を発足し1回開催 (3) 農業委員と各地域ごとの貸付希望農地及び中心経営体情報の共有を6回実施 (4) 認定新規就農者1人、初期投資促進事業1人を支援 (5) 目標地図等の策定に向けて地元検討会(9回)	(1) 地産地消PRイベント等を3回開催（延べ参加者442人） (2) 上長瀬・下丸子農地利用会議を発足（5/10）し3回開催 (3) 農業の担い手に農用地14.8haを集積して生産性が向上 (4) 認定新規就農者2人、初期投資促進事業1人を支援 (5) 公告・縦覧後、地域計画の策定完了・公表（市全体）				
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・地権者代表等による市民参加による遊休荒廃地の解消に向けた営農計画の検討（上長瀬・下丸子地区） ・丸子まちづくり会議との市民協働による陣場台地整備計画策定業務				○取組による効果・残された課題				

令和6年度 重点目標管理シート

重点目標		丸子温泉郷の魅力向上と産業の創出		部局名	丸子地域自治センター	優先順位	3 位
総合計画における位置付け		第3編 誰もがいきいき働き産業が育つまちづくり 第2章 新たな価値を創造する商工・サービス業の振興 第1節 新しい産業の創出と中小企業者の経営力強化 第2節 地域経済を牽引する工業（ものづくり産業）の振興 第3節 賑わいと活力ある商業の振興 第3章 魅力ある観光地づくり 第1節 おもてなしで迎える観光の振興		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け		DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる	
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 イ 多様な主体が市政に参画・協働する制度づくり					
現況・課題		鹿教湯温泉・大塩温泉・霊泉寺温泉からなる丸子温泉郷は、かつては国民保養温泉地として豊かな自然や医療機関との連携などの地域特性を活かし、多くの宿泊客で賑わいましたが、温泉保養事業の終了など、時代の変化に加え て、新型コロナウイルス感染症の影響により観光客の減少が続いています。また、老舗旅館の廃業など、地域を支えるマンパワーも不足しつつあります。また今年度施設廃止予定の鹿月荘・クアハウスについて、廃止に向けた手続きと、廃止後の鹿教湯温泉全体の魅力向上を図る事業を検討し、丸子物産館においても、民間貸付に向けた手続きを進めていく必要があります。こうした状況の中、丸子温泉郷では若い世代の旅館経営者などが中心となった複数のグループにより、「地域の活性化」という共通目的の実現に向けた様々な活動が継続されています。地域内の人口減少、後継者不足の他、全国的な物価高・原材料高など商工業事業者を取り巻く状況が悪化するなか、新たな販路の開拓や地域の賑わいの創出が課題となっています。上長瀬・下丸子地区は農業基盤が未整備であり、交通アクセスの良さから、工業関係者から新たな産業団地の整備が求められています。					
目的・効果		「健康の湯」「回復力の湯」として、国民保養温泉地指定の健全な保養地である丸子温泉郷のイメージを大切にしながら、現代のライフスタイルにもあった滞在型観光の魅力をPRし、来客数増加を目指します。行政、上田市商工会、地域住民、地元事業者が一体となり産業の振興を図ります。農業生産基盤整備未整備地区における産業団地の整備。			該当するSDGsの目標	3 すべての人に健康と福祉を 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナースHIPで目標を達成しよう	
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	【観光施設の再活用に向けた取組等】 (1) 鹿月荘・クアハウス廃止に向けた手続き (2) 鹿教湯温泉全体の魅力向上を図る事業の検討 (3) 丸子物産館の再活用に向けた手続き	(1) 6月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月	(1) 行政財産の条例・規則廃止 (2) 魅力向上を図る事業計画策定 (3) 施設修繕、貸付契約、開業支援	(1) 6月議会で条例廃止を議決 (2) 鹿教湯温泉100年ブランド創造プロジェクト外会議で検討（2回） (3) 4/25貸付契約締結 9月末で施設の大規模修繕工事等完了		(1) 3/31両施設閉館 (2) 庁内協議に向けた事業計画素案作成 (3) 3/22リニューアルオープン	
②	【観光地域の魅力向上の取組】 (1) 丸子温泉郷の誘客に向けた取組 (2) 地域内観光資源の連携	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 観光協会と連携した事業の企画運営 (2) 専用タブレット等を利用した情報発信：週1回程度	(1) 鹿教湯ポールウォーキング（67名参加） (2) 地域の観光情報 Instagram(31回)とX(31回)で配信		(1) 鹿教湯ポールウォーキング（67名参加）、食・浴の秋祭りウィーク（580人）、こたつバル（112人） (2) 地域の観光情報 Instagram(61回)とX(61回)で配信（更新合計122回）	
③	【地域の伝統を活かした賑わいの創出】 (1) 夏祭り開催と花市への支援 (2) 木曾義仲拳兵の地のブランド化	(1) 8月 (2) 4月～3月	(1) 目標来場者数7,000人 (2) 木曾義仲伝承事業の実施	(1) 丸子ドドンコ（来場者数2,000人） 花市（来場者数5,000人） (2) 義仲うちわ（2,000枚）シール作製配布（2,000枚） 義仲しおり及びげんきまるこ産業フェスタのぬりえコーナー出展準備		(1) 8/3 丸子ドドンコ（来場者数2,000人） 8/12 花市（来場者数5,000人） (2) 義仲うちわ（2,000枚）シール作製配布（2,000枚） 義仲しおり（4,000枚）げんきまるこ産業フェスタのぬりえコーナー出展（来場者数111人）、小学校児童向漫画冊子発行	
④	【産業団地整備による産業振興】 (1) 産業団地整備に向けた事業の推進	(1) 4月～3月	(1) 地域未来投資促進法に基づく関係者との協議	(1) 4/25地権者向け説明会開催 3社土地利用計画申請中		(1) 地域未来投資促進法にかかる重点地域3社による土地利用計画申請済、地域牽引事業計画承認済	
⑤	【企業の経営力向上の取組】 (1) 上田市商工会と連携した産業支援 (2) 販路拡大を目的とした展示会への出展支援 (3) 丸子地域の工業振興に向けた取組	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月	(1) げんきまるこ産業フェスタ運営ほか支援 (2) 展示会出展3社 (3) 工業三団体の事業支援	(1) げんきまるこ産業フェスタ事務局会議開催（2回） (2) 展示会出展3社 (3) 7月親睦ゴルフ大会 9月正副会長会		(1) 10/26げんきまるこ産業フェスタ開催・事務局会議（5回） (2) 展示会出展8社 (3) 10月諏訪圏工業メッセ出展支援（3社） 2月テクニカルショー横浜出展支援（5社）	
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題			

令和6年度 重点目標管理シート

重点目標		人と環境に優しい地域づくり		部局名	丸子地域自治センター	優先順位	4 位	
総合計画における		第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり // 第1編 市民が主役のまちづくり 第4編 とともに支え合い健やかに暮らせるまちづくり		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」に おける位置付け	日本を代表する循環型社会をつくる DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる 福祉を充実し、多様性を尊重した地域共生社会を実現する			
		第1章 豊かな環境を未来につなぐ 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第3章 地方分権にふさわしい行財政経営 第1章 自分らしい豊かな人生を送る健康づくり						
位置付け		第2節 循環型社会形成の推進 第6節 犯罪や交通事故のないまちづくりと消費者被害防止の推進 第1節 行財政改革の推進と住民サービスの充実 第1節 健康都市を目指した健康づくり事業の推進						
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け				(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革				
現況・課題	○循環型社会形成が求められる中において、家庭や事業所における環境負荷低減に向けた取り組みとして、ごみの発生抑制・再使用を優先したライフスタイルへの転換をはじめとし、プラスチックごみ等の適正な分別による再資源 化の推進など、ごみの減量・再資源化が大きな課題となっている。 ○特殊詐欺被害件数、被害額が未だ高く、被害者の8割強が高齢者であり社会問題となっている。 ○築25年経過した丸子福祉センターは、設備の不具合や施設の老朽化も目立つようになり、度々設備停止により利用者へ不便をかけている。 ○国は、令和4年度末にはほとんど全ての住民がマイナンバーカードを取得することを目標としていたが、上田市における令和5年度保有率は約70%である。							
目的・効果	○「第二次上田市総合計画（後期まちづくり計画）第2編 自然・生活環境 安全安心な快適環境のまちづくり」に掲げる施策等を推進し、持続的な発展が可能となる循環型社会形成が具現化される。 ○巡回パトロールや特殊詐欺の多い電話での被害を防止することにより、被害者撲滅に努める。 ○地域の福祉・ボランティア活動及び保健医療サービスの拠点である本施設の快適性・安全性の向上及び長寿命化を図る。 ○マイナンバーカードの普及により、各種カードの一元化と行政手続きの簡素化、コンビニでの証明書交付等による利便性が向上する。			該当するSDGsの目標				
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
①	【可燃ごみ減量化に向けた取り組み】 (1) 生ごみ減量化施策の啓発 ・生ごみ減量化機器の普及促進 ・ぱっくんやEM菌など生ごみ堆肥化事業普及促進 (2) 古布類の再利用促進	(1) 4月～3月 (2) 11月	(1) ・ごみ減量化機器補助件数40件 ・支給（ぱっくん）件数135件 普及イベントの共同開催年6回 (2) 古布回収量 700kg	(1) ごみ減量化機器補助件数: 38件(40台) （コンポスト: 11件(13台)、処理機: 27件 27台） ぱっくん支給件数: 39件 普及イベント共同開催(EM菌): 6回 (2) 市HPや広報紙等による周知活動		(1) ごみ減量化機器補助件数: 40件(42台) （コンポスト: 11件(13台)、処理機: 29件(29台)） ぱっくん支給件数: 107件 普及イベント共同開催(EM菌): 7回 消費生活展でぱっくん紹介出展 (2) 古布回収量: 1,300kg		
②	【防犯・防災意識の高揚と被害防止の推進】 (1) 青色灯パトロールによる防犯パトロールの実施 (2) 防犯・交通安全の啓発	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) パトロール実施 年40回 (2) 消費生活展出展等広報活動	(1) 防犯パトロール: 24回/地域 詐欺防止広報: 4回/地域(防犯パトロール時) (2) [消費生活展への出展] 出展準備 [防犯] 特殊詐欺被害防止機器補助: 9件 丸子有線放送にて詐欺防止啓発放送: 3回 [交通安全] 高齢者ヘルメット補助: 2件		(1) 防犯パトロール: 47回/地域 詐欺防止広報: 10回/地域(防犯パトロール時) (2) [消費生活展への出展] 防犯: 詐欺被害事例、交通安全: ヘルメットの安全性 [防犯] 特殊詐欺被害防止機器補助: 18件 丸子有線放送にて詐欺防止啓発放送: 8回 [交通安全] 高齢者ヘルメット補助: 3件		
③	【丸子福祉センター整備】 (1) 設備改修	(1) 4月～3月	(1) 設備改修実施設計の完了	(1) 9/27 入札落札 工期: 令和6年10月1日～令和7年3月31日 進捗率: 30%（9月末）		(1) 3/31 設備改修実施設計完了		
④	【マイナンバーカードの普及促進】 (1) マイナンバーカード交付率の向上	(1) 4月～3月	(1) 本庁及び各自治センターと連携した保有率 73%	(1) マイナンバーカード保有率 72.7% (9月末)		(1) マイナンバーカード保有枚数率 76.5%		
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題				